

きゅうもじぜいかん きたきゅうしゅうしきゅうおおさかしょうせん
旧門司税関と北九州市旧大阪商船

所在地/北九州市門司区
指定/国登録有形文化財（旧大阪商船のみ）、日本遺産



旧門司税関



北九州市旧大阪商船

福岡県の一番東、本州と向き合うところに門司の町があります。明治時代、九州の出入口として多くの船がやってきた門司の港には、船や港に係る施設が建てられました。その中で、現在でも残されている主な建物に、旧門司税関と北九州市旧大阪商船があります。

門司港は、1889（明治22）年に一部の商品に限って外国と貿易ができる港になり、1899（明治32）年には自由に貿易ができる港となりました。貿易を行う港には、輸出・輸入する荷物の検査などを行うため、税関という国の施設がおかれます。1912（明治45）年、門司の税関として新しく建てられたのが旧門司税関で、役所作りで有名な建築家が指導した、レンガ造りの建物でした。門司港が発展していく中、1917（大正6）年には、大阪商船という当時の船会社が、門司に支店の建物を建てま

した。壁の一部にレンガを使い、八角形の高い塔が特徴の建物です。完成後は、門司とアジア大陸など各地を結ぶ航路の重要地点として使われました。旧門司税関も北九州市旧大阪商船も、門司港で行われる貿易や荷物の輸送を支えた建物でした。

やがて、どちらの建物も本来の役割を終えるときがやってきましたが、いずれも明治・大正時代の姿をとどめる貴重な建物として、保存されることになりました。そして現在は「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」の一部として、文化や伝統を伝える日本遺産になっています。

【旧門司税関と北九州市旧大阪商船に行ってみよう】

○JR門司港駅下車、徒歩8分（旧門司税関）、徒歩3分（旧大阪商船）